

DC FLASH

新冠へのメッセージ

本当の音は誰が作るのか 金田明彦

寄稿

金田式DCアンプとの出会い 照井 謙



プロローグ

金田明彦さんを「RE・CORD」のCOR (D) コアとして、本当のレコード音楽を聴きたいと思う心から、私たちのグループがお声掛けをし、お話をおうかがいする機会を持ちたいと打診しましたところ、「話だけでは説得力がないので、音楽を聴けるようにアンプの製作会もやってしまおうよ」とのご返事がかえってきました。

このことがきっかけとなり、よもや自分でアンプを製作することになろうとは思ってもいなかったメンバーもあり、しかも、素人のはじめて作るアンプが、性能はメーカーのアンプを越えること数倍、価格はその逆という結果になろうとは誰が予想したことでしょう。はじめは、きっと音が出ないだろう、と内心思っていたメンバーもいたようですが、自分のアンプが試聴会で主役をつとめ出すと、なにやら誇らしげな思いにひたって、金田先生の解説とレコード音楽のおりなす素晴らしいひとときは、2日間夜中までかけて半田コテと格闘したことをすっかり忘れ、その疲れもどこかへ吹き飛んでいた。

そして、会も終わりにちかづいたころ、金田先生持参の真空管DCプリアンプに代えたときの感想は、目から何枚も鱗が剥がれたのは私ばかりではなかったと思います。

その場の空気は、なにやら別の次元のものにすり替わった。清浄作用がはじまったのだろうか。そして、メーカーの音楽が時空を超えて目の当たりに蘇るといっても大げさではない。さらに、曲が終わると自然に拍手が沸き起こった。いままで多くのレコードコンサート活動をやってきたが、レコードを聴いて拍手があったのは今回初めての経験である。このように素晴らしい経験を多くの方々に広げようとして今回、MJ誌8月号でお呼びかけをしたところであります。その内容は別掲のとおりですので、お友達にもおひろめくださると幸いです。

(TY)

時空を超えた音楽会

単にレコードを聴くだけが人生ではないはずです。この世界で自分しか出せない再現音楽。これこそ自作オーディオの最大の喜びです。作曲者と演奏者それに自分を加えてはじめて音楽が再現できるのです。



時空を超えた音楽会

エピローグ

このたび、5月の14、15日の両日、お忙しいお身体の金田先生にご足労いただき、当新冠町において第1回金田式DCアンプの製作会と講演・試聴会を非常に楽しく開催させていただきことに対して、金田先生に心からお礼申し上げます。

また、この企画について紙面を提供いただいたMJ編集部にもお礼申し上げます。

5月のこの時期は、隣町の静内の桜まつりで道路は渋滞、札幌からは普通2時間程度のところ3倍位の時間を要して駆けつけた方もおられました。遠方から、函館、網走、砂川等からも見られ金田先生への思い入れの深さを痛感したところです。

さて、このところMJの6、8、9号と対称アンプに関する議論が続いていますが、皆さんの中で私はこう思うという方がいらっしゃいましたら、是非「サイドワインダー」に投稿されてはいかがでしょうか。私は技術的には素人ですが、皆さんの中に技術的に議論できる方は技術で、感性的な議論を得意とする方は感性で応援されるとよろしいかと思えます。今のところ金田先生一人で多勢に無勢の感がありますので・・・。(YT)

今回は、金田先生からのメッセージをいただきましたので、掲載させていただきます。

あわせて、砂川の照井 謙さんからの投稿も掲載いたします。

是非、皆さんの近況や系譜についてお寄せください。(ワープロ原稿を希望します。)

